●らかん
1987年1月21日生まれ。五城目町出身。2015年 秋田NHK放送「ニュースこまち」にて密着取材が放送される。2016年 1st ALBUM「Bouquet」発売。2017年 「ブラウブリッツ秋田」公式応援ソングを制作。同年、秋田魁新報社「さきがけ電子版」CMに出演。2018年 「ブラウブリッツ秋田」公式応援サポーターに就任。2nd ALBUM「狼煙」を発売し、さらに同年は、「男鹿ナマハゲロックフェス vol.9」にも出演。五城目町観光物産PR大使にも就任するなど、秋田県出身のラッパーとして活躍中。

ラッパー
羅漢

ラップと農業の二刀流!!

音楽作りと米作りはよく似ている。

私の実家は農家のため、幼少期の頃から米作りの手伝いをしてきた。種まき、田植え、稲刈りとどの工程においても、とにかく根気強い作業が求められる。そして日々変わる環境に対応しつつ、製法の伝統にのっとった上で、オリジナリティー（品種改良）を生み出し、他と差別化を図る。例えオリジナリティーにこだわらずとも、消費者が求める期待に応えられるモノを、毎年作り出し続けていかなければならない。以上を踏まえて、音楽作りと米作りはよく似ている。

そして、この二つに共通して言えることは、「良いものを作る」という情熱だ。

情熱が無ければ、その都度で出来上がる形に満足してしまい、やがてマンネリ化を生み出す。もしそうなれば私は、今もマイクを握っているかは定かではなく、ましてやここで記事を書くことも無かっただろう。思い通りに物事が進まず、頭を抱えながら、それでも情熱を持ち、試行錯誤を日々積み重ねた結果、18歳から始めた音楽活動は今に至ったと思う。

しかし、いくら「音楽作りと米作りはよく似ている」と私が言ったところで、ピンとこない方が大半だろう。なので少し言い方を変えてみる。

農家育ちの自分だからこその視点で、農業の良いも悪いもラップに乗せて表現し、「農業×ラップ」という斬新でありながら、とてもリアリティーのある作品を作り出せるのではないかと考える。

若者の農業に対する抵抗感は、年々無くなってきている印象があり、これは農業関係者の努力のたまものだと感じる。若者に身近なラップとその真逆にある農業のアンバランスな組み合わせが、思わぬ相乗効果を生み出し、幅広く農業への理解度が深まると共に、就職の選択肢の一つとして農業が大きな抵抗もなく挙げられる役割を果たすのではないだろうか。

「喜怒哀楽をストレートにたくさんの言葉で表現できるラップだからこそ」である。

そもそもこのページにラッパーが登場することは革命的な一歩だと言っても過言ではないだろう。

「五城目町観光物産PR大使」（2018年9月30日付）に就任した今、農業に携わる機会が今まで以上に増えることになるので、農業に寄り添い、音楽と共に生きていくという、今まで誰も見たことがないであろう、「ラップと農業の二刀流」を極めていきたい。

「男鹿ナマハゲロックフェス vol.9」にて、会場・観客も一体になって盛り上がる